

BDDNEWSレター 11号

有望産業に注目、BDDNEWS第1次奨学生5人決定

2017.12.25

ニュースサイト: <http://bddnews.com/> フェアトレードサイト: https://peiraichi.com/landing_pages/view/bddnews

The Daily Star: 10億ドルを呼び込む産業

SOME PROMISING SECTORS

Apparel	Frozen food
Agriculture	Energy
ICT	Handicrafts
Light engineering	Ceramics
Pharmaceuticals	Tourism
Infrastructure	Healthcare

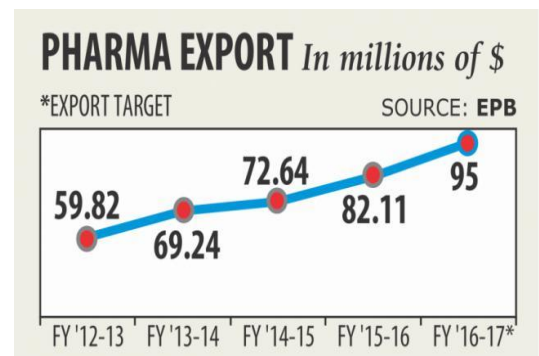
バングラデシュと言えば衣料品産業や皮革産業、最近ではICT産業が盛んですが、他にも多くの有望な産業があります。例えばBDDNEWSを“潜在力”や“有望”で検索すると、観光、エネルギー、運送、紅茶栽培、おもちゃ、ビタミンA米など様々な結果が出てきます。中には“10億ドルを呼び込む産業”というそのものズバリの記事があり、上記の他、冷凍食品、手工芸品、軽機械、陶器、製菓、インフラ、保健医療が挙げられていました。

レター11号はこれまで翻訳したおよそ6000本の記事から、あまり知られて来なかった有望産業に注目してみます。

製薬産業

2015年11月、世界貿易機関(WTO)のTRIPS(知的所有権の貿易関連側面)協議会は後発発展途上国に対し、医薬品特許の適用とデータ保護を2033年まで免除するという“医薬品の特許放棄”を延長した。これにより過去7年間、ジェネリック医薬品の輸出は約25%の勢いで伸び、一部の国内企業は規制の厳しい米国や英国市場にも進出している。

製薬産業の規模は年16%で成長し、国内市場は2016年時点で20億ドル(2270億円)に達した。これは国内需要の97%を満たす規模だ。



冷凍食品



政府によるエビ養殖増産のためのインフラ開発、輸出奨励金の支給、民間養殖業者の淡水エビ養殖の成功、沿岸地帯のカニ養殖技術の発展、コックスバザール県からランガマティ県への干物産地の広がりなどで、水産冷凍食品の海外(中国、香港、台湾、マレーシア、ドバイ、サウジアラビアなど)輸出が伸びてきた。

12月7日に発表された輸出推進局の公式データによると、今会計年度当初5カ月間(7-11月)の冷凍食品および冷凍魚の輸出は前年同期から10.78%増加し、2億7240万ドル(308億円)になった。

陶器産業



12月に入っすぐ、“陶器(セラミック)展始まる”という記事があった。衣料品(世界2位の輸出国)や皮革製品、ジュート製品の輸出が有名なバングラデシュで陶器？

不思議に思ったスタッフが翻訳していくと、国内には62の陶器製造業者があり、業界は10億ドルの収益を上げていることが判明した。そのうえ、すでに5千万ドルの輸出収益があるというではないか。ますます興味を持ったスタッフはBDDNEWSを“陶器”で検索してみた。

【産地】

ダッカのライエルバザール近辺はかつてクマルパラ(近所に陶芸家が住む)と言われるほど、陶芸が盛んな場所だった。独立戦争(1971年)直後ですら、西ダンモンディからモハマドプールバス停に至るまで、洒落た陶芸品を作っていたという。

ボリシャル県バケルガンジ郡モヘシュプールポールパラでは少なくとも200世帯以上が陶器製作に従事する。そのほぼ半数を占める女性たちが家の敷地内で粘土を使い、凝乳(ぎょうにゅう)壺や鉢受け、花瓶といった様々な商品の製作に精を出す。



【衰退】

一方、主にプラスチック製品の台頭、粘土不足という理由で陶芸は衰退してきた。

市場にはプラスチックやアルミニウムの製品があふれたことで儲けが出なくなったため、多くの家は昔からの仕事をやめた(ダッカの陶芸店主)

プラスチック製の壺や容器がより安い値段で売られ、消費者はこれらが粘土製の物よりも便利だと考えています(〃陶芸店主)

かつてはライエルバザールを流れる川から粘土を集めていた。しかし今では粘土が取れず多くの家でやめてしまいました。今ではタンガイルやガジプール、ボリシャルから品物を集めています(ボリシャルの陶工)

前は近くの川岸で粘土を集めていましたが、今ではボート一杯の土を7千タカ(9548円)で買っています。(ボリシャルの別の陶工)

この流れで輸出が10億ドルまで伸びるとは到底思えない。もやもやした気分を抱えたスタッフが“セラミック”で検索してみると……意外な事実が見えてきた。

【陶器からセラミックへ】



ミル・セラミックス社は環境に優しい床タイル、壁タイル、階段タイルを生産している。水処理プラントでミル・セラミックス社の製品を使うと、環境汚染が少なくなるという。

ミルプール・カディム・セラミックスも環境に優しいビジネスに参入した。政府の5カ年計画で2020年まで完全に表層土の使用を止める計画があるため、すでにレンガ製造に表層土を使っていないという。その他ブロック、舗装材料、屋根瓦、壁材も環境に優しい素材で製造している。

高品質の製品を競争力ある価格で生産することから、バングラデシュのセラミック業界は国内外の市場で巨大成長の可能性があると記事があった(12月6日: The Daily Star)。わずか5年前、セラミック業界に進出したアキジグループのSk・バシール・ウディン社長によると、国内で作られたセラミックタイルはコスト面で競争力があり、中国などで作られたものよりも品質が優れているという。デジタル印刷タイルを市場に投入するなど、新製品開発も行う。今後はタイルの他、衛生陶器、送電線用の碍子(がいし: 絶縁体)など、セラミック製品が包括的に製造できる工場を持ち、輸出を伸ばしていく計画だという。

「セラミック産業は労働集約型で、(人口にくらべて)土地の少ないバングラデシュで伸びていく可能性は非常に高いのです」

思わず納得した。

バングラデシュのネットユーザー

ICT産業の輸出が盛んなバングラデシュだが、国内のネット事情はどのように変化して来たのだろう。BDDNEWSが始まってからの記事で追ってみます。

◇2014/4/4【24%のインターネットユーザー】

ジュナイト・アーメド・バラクICT担当国務相は、現在バングラデシュ国内の24%(約**3840万人**)の人がインターネットを利用していると話した。彼が2009年にアワミ連盟に入ったとき、国内のインターネットユーザはわずか4%だったという。

◇2015/6/30【175万人のモバイルインターネットユーザー】

バングラデシュ電気通信規制委員会(BTRC)は5月、およそ175万人が新たに携帯電話によるインターネット接続をはじめ、合計で**4590万人**になったと発表した。3Gネットワークが普及したため、加入者がこれだけ早く増えたと業界関係者。

◇2015/9/2【インターネット接続、5千万を超える】

BTRCは、7月の実質インターネット接続数は前月から5%増加して**5070万人**になったと発表した。接続の内訳は携帯電話でおよそ4920万、WiMaxで14万7千、インターネットサービスプロバイダやランドフォンで129万3千だという。

◇2016/4/19【インターネット接続加速】

BTRCによると、今年第一四半期の国内インターネット接続は前年比37%増の**6130万人**になった。そのうち94%が携帯電話を使ったインターネット接続で、総インターネット接続は6千万を超えた。

◇2016/9/23【3Gインターネットに勢い】

BTRCによると、6月時点で5970万枚のSIMカードがインターネットに接続され、そのうち48.28%が最も速いデータ通信サービスの恩恵を受ける。同時点でアクティブなSIMカード総数は1億3140万枚だった。

◇2017/11/15【携帯ユーザー1.4億人以上】

BTRCが明らかにした統計によると、国内の携帯電話ユーザーは1億4千万人を越えたという。現在国内の携帯電話ユーザーは1億4071万3千人で、インターネットユーザーは**7922万7千人**いる。

◇2017/12/21【ネットユーザー8017万人】

BTRCの最新データによると、国内の全インターネットユーザー数は**8016万6千人**になった。そのうち携帯電話での利用が7470万人だという。携帯電話ユーザー数は1億4310万6千人になった。

3年9カ月でネットユーザーは約4200万人増えた。そのうえ、千人単位まで人数が把握できるようになった。現在、ユーザーは国民の50.1%。伸びしろはまだある。

BDD奨学金2017 奨学生の横顔

@ジョソール県ナイラ村

かねてこのレターで報告の通り、BDDニュースの奨学金(BDD Scholarship for new generation)の第一回奨学生面接を、ご縁のあるジョソール県ナイラ村で行いました。当日、BDDニューススタッフと現地協力スタッフが、基準に達した子どもたち20名に応募動機や将来の目標などを尋ね、先生方から普段の学業態度や成績などを聞き取ったうえで、それぞれが明確で、積極的な5人を選びました。

これもひとえに読者の皆さまのご支援と現地スタッフ、先生方の協力の賜物です。皆様に心より感謝し、未来のバングラデシュを作っていく若い彼らの横顔をお伝えします。



ラジュ・アハメド(15歳)

□応募動機

10年生。修士課程まで行きたいが財政的支援なしでは難しい。4人家族の月収はわずか1万タカ(1万3700円)。BDD奨学金を受け取ることができれば、試験代や授業料、文具などの購入に充てることができる。

□人生の目標

電気系エンジニアやソーシャルワーカーになりたい。村の人は電気が安定的に来てほしいと願っている。今は電化製品が故障したとき、修理に時間がかかる。電化製品が壊れて困っている人のため、修理などができる技術者になりたい。



シャオン・ホセイン(15歳)

□応募動機

10年生。修士課程まで行きたいが財政的支援なしでは難しい。4人家族の月収はわずか5千タカ(6800円)だ。BDD奨学金を受け取ることができれば試験代や授業料、文具などの購入に充てることができる。また、移動を簡単にするため自転車を買いたい。

□人生の目標

社会で重要な役割を果たすと感じているので、ソーシャルワーカーになりたい。自分たちは社会的な存在で、お互いに助け合う必要がある。マザーテレサのように誰かを助け、誰かのために奉仕したい。宗教で最も大事なものは他人のために働くことだ。バングラデシュに住む多くの人が貧しい生活を送っている。彼らを支援することで自分自身も幸福を感じるだろう。



トーキール・イスラム(15歳)

□応募動機

10年生。修士課程まで行きたいと考えているが、5人家族の月収はわずか6千タカ(8200円)のため、勉強を続けるために支援が必要だ。BDD奨学金を受け取ることができれば試験代や授業料、文具などを購入することができる。

□人生の目標

自分が理想と思えるような教師になりたい。教師は国の礎を創ると思う。社会の人すべてが尊敬できる職業として教師をあげる。教師は生徒や地域社会の人々に知識を伝え、知性溢れる教育的資質を分かち合うことで、良い社会を作り出すことができる。生涯を通じて先生として、社会奉仕活動に関わっていききたい。



イスラフィル・ホセイン(15歳)

□応募動機

10年生。警官になりたい。7人家族の平均月収は7500タカ(1万300円)。BDD奨学金を受け取ることができれば試験代や授業料、文具などを購入することができる。

□人生の目標

誠実な警察官になりたい。誠実な警察官が犯罪を減らし、社会を変えることができると思う。だが、今、そんな警察官を見つけることは難しい。だから、自分は誠実な警察官として、生涯を通じて社会奉仕活動を行っていききたい。



アリフル・イスラム(15歳)

□応募動機

10年生。医者になりたい。5人家族の月収は6千タカ(8200円)。BDD奨学金を受け取ることができれば試験代や授業料、文具などを購入することができる。

□人生の目標

地方の農村に暮らすほとんどの人は貧しい生活を送り、様々な病気に苦しんでいる。村には医者がないため、町まで出なければならぬが、時間がかかるうえ、高額でなかなか治療が受けられない。子どもの頃、適切な治療を受けられず母親を亡くした。それ以来、ずっと医者になりたいと思っている。医者になって村の人に適切な医療を提供したい。母を失う悲しみを他の人に味わってほしくない。

お知らせ

その1

バングラデシュにあるProthom Alo、The Daily Star、Financial Expressの新聞三社から記事や写真の提供を受け、日本語翻訳したものを配信するBDDNEWSですが、11月1日から新たに自動配信に取り組み始めました。これにより、毎日5-10本程度だった配信が100本以上になりました。機械翻訳を使ったニュースですので読みにくいところも多々ありますが、徐々に改善していきますので、今後ともよろしくお願ひします。

なお、Facebookではこれまで通り、人間翻訳をしたものだけがお読み頂けます(一日5本前後)。是非、御覧ください。<https://www.facebook.com/BDD-News-346070898886227/>

その2

2018年、BDDNEWSは独立採算を目指します。まずは日本企業とバングラデシュ企業を結ぶビジネスマッチングサイト(Japan-Bangladesh Business Matching Site)の構築、次いで新聞三社との提携関係やバングラデシュ人スタッフという人材を活かした電子出版事業を考えています。

読者の皆様の中でビジネスマッチングサイトに興味のある方、こんな本なら読みたい、こんな本を作ってもらえないか、バングラデシュ応援のために寄付したいなどのご意見、ご要望、お申込みがありましたら、bdd@murphy.co.jpまでご連絡ください。

なお、石鹸、紅茶、ボールペンの販売は継続して行っておりますので、フェアトレードサイトhttps://peraichi.com/landing_pages/view/bddnews よりお申込みください。お待ちしております。

※例えば、こんな電子出版を考えています。

◇バングラデシュでビジネスをやりたい人向けのハンドブック(税制優遇措置や登記のノウハウがわかるもの)

◇多様なベンガル(バングラデシュ)カレーのレシピ集

◇漫画やイラストでわかるバングラデシュ

◇日常遣いのベンガル語

◇消え去る前に残しておきたいバングラデシュの地方文化

◇バングラデシュ白書(これまでのニュースで気になる経済指標を定点観測で追いかけたもの)

◇バングラデシュの民話、物語

etc

7%以上という順調な経済成長を続ける中、今年、ロヒンギャ問題で世界中の注目を浴びたバングラデシュ。来年には五年に一度の総選挙が控えています。

ますます目が離せないバングラデシュですが、BDDNEWSは今後も現地新聞のニュースを通じてバングラデシュの実情を多く発信していきたいと思ひます。

2018年もよろしくお願ひ致します。

株式会社マーフィーシステムズ BDDNews係 〒930-0005富山県富山市新桜町5-11
TEL:076-411-9488 FAX:076-411-9766 E-mail: bdd@murphy.co.jp
